

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル⑦

- 男性 / 23歳
- 職業/年次：メーカー(2年)
- 居住エリア：大田区
- 居住形態：社宅
- 奨学金：あり
- 2026年GWの計画：国内：大阪(USJ/夜行バス) / 予算：5~6万
- 2026年夏休みの計画：なし(家でゲーム)

<結果サマリー>

深夜バスの苦勞を友人と笑う「若者らしい無理」を通じ、支払いに追われる日常から自尊心を取り戻すための日常のシャットダウン

1. 導入

根拠：奨学金返済という固定の制約を抱えながら、平日は昼食を削るなどの極端な儉約を行い、月5,000円~1万円のゲーム課金と実家から持ってきた車の維持を並行させている。車は維持費の重さを自覚しつつも、深夜の移動や「一人になれる安心感」を確保するための不可欠な空間として維持している。

推論：彼の家計管理は一律の節約ではなく、精神的な防衛線を守るための「選択的投資」である。ゲームや車は、社宅と職場の往復という閉鎖的な日常から自身を切り離すための「装置」であり、それらを維持すること自体が、日々の支払いをこなすための精神的な担保となっている。

FD：日常を「守り」と定義する彼にとって、不合理に見える支出(車・課金)こそが、日々の生活を破綻させないための生命線である。欠落(節約)を厭わない一方で、自身の聖域を守ることに固執するという、歪だが強固な生存バランスを保っている。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：GWに「夜行バス」で大阪へ向かう一方で、夏休みを「無」とする極端な配分を選択。彼女を作ることについては「記念日やデートのコストが無理」と断言し、気を使わず「身体的なしんどさも笑い合える」男友達との安価な旅に、今の自分にふさわしい「健全さ」を見出している。

推論：恋愛を「自身の生活基盤を脅かすリスク」と捉え、投資対効果が不明瞭な関係性をあらかじめ遮断している。その分、身体的苦痛(バス移動)を伴ってでも得られる友人との共有体験に全リソースを集中させており、これが彼にとって「20代として生きている」という数少ない証明になっている。

FD：彼は「恋愛」という社会的な贅沢を損切りすることで、かろうじて「旅行」という最大のご褒美を成立させている。友人との気を使わない安価な旅は、経済的な劣等感を感じることなく、自分自身の輪郭を再確認するための避難所として機能している。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠： 旅行を「日常のシャットダウン」と呼び、仕事のプレッシャーをリセットする唯一の「攻め」の行為と定義する。30代になれば「安さを追求するのは惨め」という予感があり、加齢によって今の「無理がきく若さ」という唯一の武器が失われることへの潜在的な恐怖を抱いている。

推論： 今の彼にとって、旅行を成立させているのは「若さ（身体的無理）」という期間限定の資本である。30代になり「最低限の生活水準」が上がることへの社会的な圧力と、向上しない可処分所得の狭間で、将来的に「旅行という救い」すら失うことへの危機感が、今の執着に近い旅行意欲の源泉となっている。

FD： 彼にとって旅行は「未来への希望」ではなく「今この瞬間のリセット」である。若さという身体的資本に依存した低コスト旅行の限界が見えているからこそ、今の彼は「しがみつく」ようにして外の世界へと這い出している。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠： 「支払いをこなすだけのマシーン」になりたくないという切実な動機が、車、ゲーム、友人との安旅行という3点に集約されている。それらを維持するために、恋愛を放棄し、昼食を削り、深夜のバスに揺られるという、極めて戦略的で身体的な代償を払っている。

推論： この人物を特徴づけているのは、冷徹なまでの「身の丈」の把握と、そこから漏れ出す「生の実感」への渴望の同居である。車を手放さず、彼女を作らず、夜行バスに乗る。これら一見バラバラな選択はすべて、自分自身を失わずにこの2026年を生き抜くための、彼なりの最適化の形である。

FD： 彼の旅行は「憧れの追求」ではなく「人間性の死守」である。物価高や返済という巨大な制約の中で、彼は「若さ」を換金し、不要な人間関係（恋愛）を切り捨てることで、かろうじて「自分」であり続けるための時間と空間を確保している。

1. 導入

【インタビューアー】 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、日々の生活のことや、お休みの日の過ごし方などについて、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【対象者】 あ、よろしくお願いいたします。

【インタビューアー】 まずは、今どのような毎日を過ごされているか、簡単に教えていただけますか？お住まいの地域のことや、お仕事のことなど、お話しいただける範囲で構いません。

【対象者】 今は大田区の方で、会社の社宅に住んでいます。メーカーに勤めていて、ちょうど2年目に入ったところですね。仕事は……まあ、覚えることも多いし、それなりに忙しくはしてますけど、なんとかやってる感じです。

【インタビューアー】 メーカーの2年目なのですね。大田区での生活はいかがですか。

【対象者】 社宅なんで、家賃が抑えられてるのは助かってます。ただ、周りに何かあるってわけでもないの、基本は職場と家の往復ですね。

【インタビューアー】 職場と家の往復という日々の中で、普段の休日はどのように過ごされていることが多いのでしょうか？

【対象者】 休日は……そうですね、だいたい家でゲームしてる人が多いです。FPSとか、あとは配信見たり。たまに大学時代の友だちと飲みに行ったりもしますが、基本はインドア派だと思います。

【インタビューアー】 家でゲームをしたり配信を見たりするのが、今の日常の楽しみなのですね。最近、特に「これにハマっている」というようなことはありますか？

【対象者】 ハマってること……。やっぱりゲームですかね。新しいタイトルが出ると、週末ずっとやってたりします。あとは、SNSで美味そうな飯の動画とか流れてくると「いつか行きたいな」って保存したりはしますが、実際に行くのはハードル高いな、って思いながら見てる感じです。

【インタビューアー】 「行きたいな」と思いつつ「ハードルが高い」と感じるのは、具体的にどういったところにハードルがあるのでしょうか？

【対象者】 やっぱりお金ですかね……。給料もそんなに高いわけじゃないし、月々の支払いとかもあるので。自由に使えるお金ってなると、どうしても限られてくるじゃないですか。

【インタビューアー】 月々の支払い、というと？

【対象者】 奨学金の返済です。毎月決まった額が引かれるので、それが地味に響くというか。生活費を払って、貯金も少しはしておきたいって考えると、あんまり派手な遊びはできないなっていうのが本音ですね。

【インタビューアー】 なるほど。ちなみにゲームには課金されたりしますか？される場合、月にどのくらい使われているのでしょうか。

【対象者】 課金、しますね……。月によりですけど、だいたい5,000円から、調子いい時というか、欲しいキャラのガチャが来た時なんかは1万円を超えることもあります。

【インタビューアー】 月に5,000円から1万円ほどですね。その金額については、ご自身の生活の中でどのように捉えていますか？

【対象者】 うーん、正直「高いな」とは思います。でも、平日は仕事して帰って寝るだけなんで、ゲームが唯一の息抜きなんですよね。飲み会1~2回分って考えたら、毎日遊べる分、こっちの方が効率い

いかなって自分に言い聞かせてる感じです。

【インタビュアー】 飲み会と比較して、毎日遊べる効率の良さを感じているんですね。先ほどおっしゃっていた奨学金の返済や生活費とのバランスについては、どのように折り合いをつけているのでしょうか。

【対象者】 そこなんですよね。だから、ゲームで使いすぎた月は、昼飯をコンビニ弁当からカップ麺に変えたり、自炊の回数増やしたりして、なんとかトントンにしています。食費を削るのが一番手っ取り早いんで。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 日々の生活についても教えていただき、ありがとうございます。ここからは、今年（2026年）の大型連休の過ごし方について伺いたいのですが、まず、GWや夏休みの予定は何か立てられていますか？

【対象者】 GWは、大阪に行こうかなと思ってます。大学の時の連中と集まろうっていう話になって。でも、夏休みは特に何もなくて……たぶん、ずっと家でゲームしてると思います。

【インタビュアー】 GWは大阪へ行かれるんですね。具体的な計画を教えてくださいませんか？

【対象者】 2泊3日の予定です。メインはUSJですね。男4人で行くんですけど。交通手段は……まあ、少しでも安く済ませたいんで、夜行バスで行くことにしました。

【インタビュアー】 夜行バスを選ばれたんですね。新幹線など他の手段も検討されたのでしょうか。

【対象者】 一応調べましたけど、やっぱり高いですよ。連休中だと新幹線は片道で1万5000円くらいするじゃないですか。往復で3万って考えると、それだけで給料の何分の一だよって思っちゃって。夜行バスなら、時期にもよりますが往復で1万ちょっとで済むこともあるんで、その分をUSJの中での飯代とか、チケット代に回した方がマシかなって。

【インタビュアー】 なるほど、移動費を抑えて現地での費用に充てるというお考えですね。宿泊先はどうされるのですか？

【対象者】 宿は、USJの近くのホテルは高すぎて無理なんで、少し離れたところにあるビジネスホテルを4人で2部屋取って、割り勘にする感じです。寝るだけだし、そこは最低限でいいかなと。

【インタビュアー】 「寝るだけなので最低限」とのことですが、ホテルを選ぶ際に特にこだわった点や、逆にここだけは妥協しなかった点はありますか？

【対象者】 こだわり……。正直、こだわりってほどじゃないですけど、駅から歩ける距離っていうのと、あとは「安さ」ですね。検索サイトで安い順に並べて、口コミがそんなに酷くなければそこでもいいや、って。

【インタビュアー】 安さを最優先にされたんですね。今回の大阪旅行全体で、予算はどのくらいをイメージされていますか？

【対象者】 トータルで……USJのチケットとかも全部含めて、5~6万円くらいに収めたいなとは思ってます。それでも、今の自分からしたらかなりの出費なんですけど。

【インタビュアー】 その5~6万円という金額は、今の生活の中でどのように工面されているのでしょうか。

【対象者】 さっき言ったみたいに、普段の食費を削ったり、あとは今月は新しいゲームを買うのを我慢したりして。ボーナスも少しは出ますけど、基本は毎月の生活費の中から「旅行用」として別で避けておいた分を使う感じです。

【インタビュアー】 ゲームを我慢したり、食費を削ったりして工面されているんですね。今回、大阪旅行を計画するにあたって、「本当はこうしたいけれど、諦めた」というようなことは何かありますか？

【対象者】 ……本当は新幹線で行きたかったですよ（笑）。夜行バスって、着いた時に体がバキバキになるんで、正直しんどいじゃないですか。あとは、USJ でもエクスプレス・パス（待ち時間を短縮できるチケット）を買うかどうか迷ったんですけど、あれも1万とか2万とかするんで、流石にそれは諦めました。並ぶのはダルいですけど、金で解決できるほど余裕はないんで。

【インタビュアー】 「金で解決できるほど余裕はない」という言葉が印象的です。一方で、夏休みについては「家でゲーム」とのことでしたが、GWとは対照的ですね。夏休みもどこかへ行く、という選択肢はなかったのでしょうか。

【対象者】 あー……それは無理ですね。GWで5~6万使っちゃうと、夏休みまでにお金を貯め直すのがキツイです。奨学金の返済もあるし、車の車検とか、不意の出費があるかもしれないし。2回も旅行に行っちゃうと、その後の生活が完全に詰むのが見えてるんですよ。

【インタビュアー】 「生活が詰む」のを避けるために、あえて夏休みは動かないという判断なのですね。GWと夏休み、それぞれの過ごし方のバランスについては、最初からそう決めていたのですか？

【対象者】 そうですね。年に1回、デカイ遊びをどこかで入れたら、あとは「無」というか（笑）、お金を使わない過ごし方をする。そうしないと、20代で社宅住まいでも、貯金がゼロになっちゃうんで。去年に比べても、コンビニの飯とか飲み物の値段が上がってるのを肌で感じるし、2025年の時よりも「あ、これちょっと使いすぎたらヤバイな」という感覚は強くなってますね。

【インタビュアー】 2025年と比較して、より「使いすぎるとヤバイ」という感覚が強まっているのですね。具体的に、どのような場面でそれを感じますか？

【対象者】 スーパーで買い物してる時とかもそうですし、あとはSNSで同世代のやつらが海外旅行とか行ってるのを見ると「マジでどういう財布事情なんだろう」とって不思議になります。自分は、国内のバス旅行が精一杯なのに。でも、そこで無理して背伸びしても、後で苦しむのは自分なんで。

【インタビュアー】 車検とおっしゃっていましたが、車を持っておられるんですね。先ほど休日の過ごし方でインドア派とおっしゃっていましたが、車はどのような用途でお使いなののでしょうか？

【対象者】 あ、車は……実家から持ってきたやつがあるんです。大田区でも、社宅に安い駐車場があるんで。用途としては、たまに深夜、地元の友だちとドンキに行ったり、どうしても車じゃないと行けないような場所にあるラーメン屋に行ったりするくらいですね。正直、維持費のことを考えると手放した方がいいのは分かっているんですけど。

【インタビュアー】 維持費のことを考えると手放した方がいい、と思いつつも持ち続けているのは、何か理由があるのですか。

【対象者】 うーん……なんでしょうね。やっぱり、自分の移動手段があるっていう「安心感」みたいなものかもしれないです。電車だとどうしても時間とか周りの目が気になりますけど、車なら一人になれるし、深夜でもパッと動けるじゃないですか。大田区に住んでると、場所によっては電車より車の方が楽な時もあるので。

【インタビュアー】 自分一人になれる空間や、自由な移動手段としての「安心感」があるのですね。先ほど、GW の大阪旅行は夜行バスとおっしゃっていましたが、ご自身の車で大阪まで行くという選択肢はなかったのでしょうか。

【対象者】 それは全く考えなかったですね。ガソリン代も高いし、高速代も往復で考えたらバカにならないじゃないですか。一人で運転して行くのは疲れるし、かといって友だちを乗せて事故でも起こしたら嫌だし。自分の車はあくまで「半径数キロ以内の足」であって、長距離を移動する道具としては、今はコストが見合わないと思ってます。

【インタビュアー】 「半径数キロ以内の足」と「旅行の移動手段」は、完全に別物として捉えているのですね。

【対象者】 そうですね。旅行は、いかに現地で使える金を残すかっていう勝負だと思ってるんで。移動に車を使って、駐車場代とか気にしながら動くのは、今の自分にはちょっと贅沢すぎるというか、コスパが悪すぎます。

【インタビュアー】 ありがとうございます。その大阪旅行、2泊3日という限られた時間の中で、具体的にどんなスケジュールを組んでいるのか詳しく伺えますか？ 何時のバスに乗って、何時にどこに着いて……という、今のところのプランを教えてください。

【対象者】 あ、はい。えーと、まず連休初日の前日の夜……仕事終わってからですね。新宿を23時過ぎに出る夜行バスに乗ります。それで、翌朝の7時とか8時くらいに梅田に着く予定です。

【インタビュアー】 初日は、朝早くに梅田に着いてから、どう動く予定ですか？

【対象者】 そのまま梅田のネカフェかどっかに入って、シャワー浴びて着替えて、身支度を整えます。で、10時くらいにはUSJに着いていたいなって。初日はもう、閉園までガッツリUSJです。夜は、さっき言ったビジネスホテルにチェックインして、近くの居酒屋かコンビニ飯で済ませて寝る、みたいな。

【インタビュアー】 2日目以降はどうでしょう。

【対象者】 2日目は、USJじゃなくて大阪市内をぶらぶらするつもりです。道頓堀とか行って、たこ焼き食べたりとか。まあ、ベタな観光ですね。で、その日もビジホに泊まって、3日目の昼過ぎくらいまでは大阪にいて、夕方前のバスで東京に戻ってくる感じです。寝る前の23時とかに新宿に着けば、次の日の仕事にも一応間に合うかなって。

【インタビュアー】 ありがとうございます。そのスケジュールの中で、あえて「これはしない」と決めていることや、時間・お金の面で工夫しているポイントはありますか？

【対象者】 「これはしない」……。そうですね、大阪ですけど、高い串カツ屋とか、ちゃんとした店でコース料理みたいなのは絶対食べないです。SNSで流れてくる「映え」系の高いスイーツとかもスルー。基本は歩きながら食べられるものとか、チェーン店に近いような安いところで済ませます。あと、お土産も買わないですね。渡す相手もそんなにいないし、自分のために数千円使うなら、その分1回でも多くガチャ回したいんで（笑）。

【インタビュアー】 2日目から3日目の夕方まで、丸1日半ほど時間がある計算になりますね。たこ焼きを食べる以外には、特に具体的な予定はないのでしょうか？ 例えば、2日間ともUSJに行くとか、あるいは2日目の夜のバスで帰るといった選択肢もあったかと思いますが、あえて2泊3日にされたのはどのようなお考えからですか。

【対象者】 あー……。2日間 USJ は、体力的に無理だねって話になりました。1日ガッツリ遊ぶだけで相当疲れるし、何よりチケット代が2日分かかるのは予算オーバーなので。2日目の夜に帰るのも考えたんですけど、それだと「せっかく大阪まで来たのに、USJ だけで終わるかよ」という物足りなさがあるというか。

【インタビュアー】 「物足りなさ」について、もう少し詳しく教えていただけますか。

【対象者】 なんて言うんですかね……。夜行バスでわざわざしんどい思いをして行くのに、滞在時間が短いと、移動の苦勞と楽しさのコスパが合わない気がしちゃうんです。2日目は、予定を詰め込まずに「大阪にいる」という感覚を味わいたいというか。ぶっちゃけ、友だちとだらだら喋りながら街を歩いてるだけでも、東京にいるのとは気分が違いますから。

【インタビュアー】 何をするかという目的よりも、「大阪にいる」という感覚や友人との時間を優先されているのですね。では、3日目の昼過ぎまで滞在して夕方のバスで帰るというスケジュールは、どなたが提案されたのですか。

【対象者】 みんなでLINEで話してて、自然とそうになりましたね。3日目の夜に東京に着くバスなら、翌日の仕事に向けて家で一応寝る時間は確保できるし。3日目の午前中とかも、適当に遅めに起きて、難波あたりでラーメン食って帰るくらいの「ゆるさ」がちょうどいいんです。今の生活、ずっと仕事でピリピリしてるんで、旅行中くらいは時間に追われたくないっていうのもあるかもしれません。

【インタビュアー】 「時間に追われたくない」というお気持ちがあるのですね。でも、夕方のバスだと東京着が深夜になりますが、その後の移動はどうされる予定ですか？

【対象者】 新宿に着くのが23時過ぎなんで、そこから電車で大田区まで帰ります。寝るのが1時過ぎになっちゃいますけど、まあ、2年目だしそのくらいの無理はきくかなって。正直、月曜の朝は地獄だと思いますけど(笑)、その「しんどさ」も含めて、連休を使い切った感がある方が、明日からまた仕事頑張ろうって思える気がするんですよ。

【インタビュアー】 あ、ごめんなさい、ちょっと気になったのですが……。大阪を夕方前に出るバスだと、新宿に着くのは夜中の2時とか3時くらいになりませんか？ 23時ごろに着くとすると、お昼過ぎには大阪を出るようなイメージでしょうか。

【対象者】 あ、そうですね……。言われてみれば、夕方前っていうか、14時とか15時くらいのバスです。それで23時過ぎに着くやつ。本当はもっと現地にいたいんですけど、それより遅いバスだと、今度は新宿からの終電がなくなっちゃうんで。

【インタビュアー】 なるほど、14時や15時発の便ですね。そうになると、3日目は実質「お昼を食べて終わり」という感じになりますが、それでも2泊して最終日の昼まで残ることに意味があるのでしょうか。

【対象者】 ありますね。もし2日目の夜に帰っちゃうと、丸一日遊んで疲れたままバスに乗らなきゃいけないじゃないですか。それって、旅行の最後が「ただの苦行」で終わる気がして。2泊して、3日目の朝にゆっくり起きて、「あー、昨日楽しかったな」と言いながら飯食って帰る。この「余韻」の時間があるかないかで、旅行全体の満足度が全然違うと思うんですよ。

【インタビュアー】 「余韻」の時間、ですか。

【対象者】 そうです。せっかく高い金払って行くんだから、ギリギリまで予定を詰め込んで疲弊するよりは、最後は少し余裕を持って、「また明日から現実か……」って嘸みしめる時間もセットで「旅行」

っていうか。まあ、単に夜行バスの連続は体が持たないっていう切実な理由もありますけどね(笑)。

【インタビュアー】なるほど。移動の負担と、精神的な満足感のバランスを考えた結果の、2泊3日とお昼過ぎの出発なのですね。

ちなみに、男友達4人旅とのことですが、旅行中は基本的に4人で一緒に行動されるという認識で合っていますか？

【対象者】基本はそうですね。USJは4人で回ります。でも、2日目の大阪市内観光とかは、ちょっと流動的になるかもしれません。

【インタビュアー】「流動的」というのは、具体的にどういったイメージでしょう。

【対象者】あー、なんて言うか……。4人もいると、食いたいもんが分かれたりするじゃないですか。一人は「ラーメン食いたい」って言うし、もう一人は「俺はたこ焼きだけでいい」みたいな。そういう時、昔だったら無理に合わせたかもしれないですけど、最近は「じゃあ1時間後にあそこの駅で」みたいに、適当に別行動する時間があってもいいよね、って話してます。

【インタビュアー】昔と比べて、あえて別行動も許容するようになったのはなぜだと思われませんか？

【対象者】やっぱり、みんな余裕がないからじゃないですかね(笑)。自分の金使って来てるんだから、食べたくないものに1,500円とか払うの、お互い嫌だろなっていうのが分かってる。変な気を使ってお互い損するより、各自好きなもん食って、あとで「あれ美味かったわ」って報告し合うくらいの方が、今は気が楽なんです。

【インタビュアー】「お互いの余裕のなさ」を前提とした、気を使わない関係性なのですね。

【対象者】そうです。移動手段とか宿は、安くするために協力して固める。でも、現地での細かいお金の使い方は、お互い干渉しない。これが、20代で無理なく旅行を続けるコツかなって勝手に思ってます。

【インタビュアー】少し立ち入ったことを伺いますが、今回は彼女と旅行……という感じではなく、男友達との旅行なのですね？

【対象者】あ、はい。彼女はいないんで(苦笑)。……というか、今の生活で彼女作ってデートして、旅行も連れてってって、正直ハードル高すぎますよ。

【インタビュアー】「ハードルが高すぎる」というのは、具体的にどういったところに感じますか。

【対象者】いや、全部ですよ。まず自分の生活を維持して、奨学金返して、たまにこうやって友達と遊ぶだけで精一杯なのに。彼女ができれば、記念日にプレゼント買ったり、飯もちょっといいところ行かなきゃいけないじゃないですか。今の自分の貯金額とか見ると、「あ、無理だな」って冷静に思っちゃうんです。

【インタビュアー】ご自身の現在の経済状況を冷静に見た時に、恋愛やそれに付随する支出は現実的ではない、ということでしょうか。

【対象者】そうです。だから、今回みたいな男4人の「安さ優先、しんどさもネタにする」みたいな旅行が、今の自分にはちょうどいいんです。気を使わなくていいし。無理して背伸びしてデート旅行行くよりは、こうやって気心知れた奴らとバスで移動してる方が、精神的には健全かなって思いますね。

【インタビュアー】なるほど。精神的な「健全さ」という言葉に、今のリアルな感覚が表れている気がします。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 ここまで具体的な計画について伺ってきましたが、ここからは少し広い視点で伺わせてください。今後、こういう旅行をしてみたい、といった理想や興味のあるスタイルはありますか？

【対象者】 理想……。そうですね、いつかは海外とかも行ってみたいですけど、今はまだ現実味がないですね。国内なら、北海道とかで美味しいもんをひたすら食べるみたいな、移動に追われない旅は憧れます。

【インタビュアー】 北海道で食に徹する旅、いいですね。ちなみに、移動を楽しむという意味では「青春 18 きっぷ」のような各駅停車の旅や、最近増えている「デジタル旅行（YouTube の絶景動画やイマーシブ体験）」についてはどう思われますか？

【対象者】 18 きっぷは……正直、今の自分には無理です（笑）。夜行バスもきついですけど、あっちの方が時間がかかりすぎるじゃないですか。限られた休みを移動だけで潰すのは、コスパが悪く感じちゃいます。デジタル旅行は、YouTube で「行った気」になるのはよくやってますよ。夜、寝る前に海外の街歩き動画とか見て、「へー、こんな感じか」って。それで十分満足しちゃう自分もいます。

【インタビュアー】 デジタルで満足する部分もあるのですね。そうなると、わざわざお金と時間をかけて「リアルな旅行」に行くことには、どのような意味があると考えていますか？

【対象者】 やっぱり、その場の「空気感」と、さっきも言いましたけど「友だちと直接会ってバカな話をする」ことですかね。画面越しに綺麗な景色を見るのと、実際に USJ で何時間も並んで、文句言いながらチュロス食うのとは、思い出としての残り方が全然違う。なんて言うか、自分にとっての旅行は「日常のシャットダウン」なんですよね。家でゲームしてるのも楽しいですけど、強制的に環境を変えないと、仕事の悩みとか将来の不安がずっと頭のどこかに残っちゃうんで。

【インタビュアー】 「日常のシャットダウン」ですか。心身ともに一度切り離す感覚なのですね。

【対象者】 そうです。だから、どんなに移動が安っぽくても、現地でやることに具体的な中身がなくても、「遠くに来た」という事実だけで、少しだけリセットされる気がします。

【インタビュアー】 今後、物価の上昇や社会保険料の負担、それから奨学金の返済といった経済的な制約は続いていくかと思います。そうした中で、ご自身の「旅行」はこうなっていくかと思いますか？

【対象者】 うーん……もっと「削れるところは削る」のが当たり前になる気がします。今はまだバスで行けてますが、これ以上物価が上がったら、旅行の回数が 2 年に 1 回になるとか、行き先がもっと近場になるとか。理想は「年 2 回、新幹線でパッと行って贅沢する」ことですが、現実には「年 1 回、いかに安く遠くへ行くかというゲーム」を続けていくんだろうなと思います。

【インタビュアー】 「年 1 回の安く遠くへ行くゲーム」という予測に対して、ご自身はどう感じていますか。

【対象者】 正直、しんどいですよ。なんでこんなに必死に働いて、遊びに行くのにもこんなに計算しなきゃいけないんだ、って思うこともあります。でも、それが今の時代の「普通」だとも思ってるので。絶望してるわけじゃないけど、賢くやらないと何も残らないなっていう危機感は常にありますね。

【インタビュアー】 そのような制約がある中でも、これだけは譲れない、これだけはやりたいと思うことはありますか。

【対象者】 「誰かと行く」ことだけは譲りたくないです。一人で安く旅行するくらいなら、家で最新の

ゲーム機買って遊んでる方が有意義だと思っちゃう。わざわざ不便な思いや高い金を出して外に出るなら、それはやっぱり友だちと笑ったり、同じものを食ったりする「体験」のためでありたい。そこをケチって一人で孤独に旅をするのは、自分の中では「旅行」としての価値が半分以下になっちゃいますね。

【インタビュアー】 ありがとうございます。どんなに制約があっても、人との繋がりや共有する体験が、旅行を成立させる最後の砦なのですね。

ちなみに「旅行には行かない」という選択肢もあると思いますが、今の生活の制約を考えると、旅行という行為自体はなくしたくないものなののでしょうか。

【対象者】 あー……それは、なくしたくないですね。正直、行かなければその分のお金は浮くし、貯金も増えるのは分かっているんですけど。でも、それだと何のために働いているのか分からなくなるというか。

【インタビュアー】 「何のために働いているのか分からなくなる」というのは、もう少し詳しく教えてください。

【対象者】 普段の生活って、社宅と職場の往復で、奨学金返して、食費削って……って、ずっと「守り」の状態なんですよね。ゲームは楽しいですけど、それも結局は日常の延長線上で。でも、旅行って唯一の「攻め」というか、自分へのご褒美みたいなものなんです。これすらなくなっちゃうと、自分の人生がただ「支払いをこなすだけの作業」になっちゃう気がして、それが一番怖いんだと思います。

【インタビュアー】 「支払いをこなすだけの作業」になることへの怖さ。だからこそ、どんなに安上がりで体がしんどい旅だとしても、外に出ることに意味があるのですね。

【対象者】 そうです。バスで体がバキバキになっても、友達と「これキツすぎだろ」って笑いながら大阪に向かってる時だけは、自分がちゃんと「20代の若者」として生きてる実感が持てるんです。だから、どれだけ物価が上がっても、形を変えてでも旅行だけはしがみついていた、っていうのが本音かもしれないです。

【インタビュアー】 「20代の若者として生きている実感」という言葉、とても重みがあると感じました。ちなみに、ご自身が30代になった時、旅行というものへの考え方は変わりそうだと想像されますか？ 今の率直なお気持ちを聞かせてください。

【対象者】 30代……。正直、想像もつかないですけど、今のままじゃいられないんだろうなとは思いますが。今はまだ「夜行バスで体がバキバキ」っていうのも、友だちと笑い話にできるエネルギーがありますけど、30代になってまで同じことをしてたら、それはそれで「自分、何やってるんだろう」って惨めになりそうな気がして。

【インタビュアー】 「惨めになりそう」というのは、どういった変化を想定されているのでしょうか。

【対象者】 やっぱり、周りの目とか、自分の求める「最低限」のラインが上がっちゃうと思うんですよね。30代になっても「1円でも安く」って必死に削ってるのは、余裕がなさすぎてカッコ悪いというか。でも、かといって給料が劇的に上がる見込みがあるわけでもないし、奨学金の返済もまだ続いているはずですし。

【インタビュアー】 経済的な状況と、理想の「30代の振る舞い」の間にギャップがあるのですね。

【対象者】 そうですね。だから、30代になったら「回数をさらに減らして、1回の質を上げる」か、あるいは「もう旅行自体を諦める」かのどちらかじゃないですかね。今の自分にとって、旅行は「若い

うちにしかできない無理」を詰め込んだものなので、それができなくなった時に、自分はどうやって「生きてる実感」を作ればいいのかってというのは、考え始めるとちょっと怖いですね。

【インタビュアー】 ありがとうございます。今の「無理がきく若さ」を前提とした旅行の価値が、より鮮明に伝わってきました。

本日は貴重なお話をたくさん聞かせていただき、ありがとうございました。お伺いした内容は、今後の参考にさせていただきます。お忙しいところ、本当にありがとうございました。

【対象者】 あ、いえ、こちらこそありがとうございました。失礼します。